

## 青木和雄

1930年神奈川県横浜市で生まれる。早稲田大学第一文学部卒業。専攻は心理学。横浜市教育委員会指導主事、同和教育担当課長、横浜市立小学校校長、横浜市教育センター教育相談員を経て、現在、教育カウンセラー、法務省人権擁護委員（神奈川県子どもの人権専門委員長）・保護司。

著書に「自分なりに輝いて生きる - 新しい子育てへの提言 - 」（神奈川県図書）、「ハートボイス - いつか翔べる日 - 」、アニメーション映画の原作となった「ハッピーバースデー - 命かがやく瞬間 - 」（ともに金の星社）など。

### 「ハートボイス - いつか翔べる日 - 」 （受容と共感）

純生の閉ざされた心が、様々な人々との関わりの中で再生していく、心の旅物語。

「あんななんか生まなきゃよかったなあ」もし自分の誕生日に、母親からそう言われたら、「あなたはやりにくい子」「早く教室から出て行きなさい」

ある日突然、先生からこんな言葉を言われたら、あなたはどうしますか？

小学校一年生の時、不登校になってしまったぼく。

でもぼくのまわりには、もっと深い闇を、心にかかえている人たちがいた。

いじめに悩む弘子、差別に苦しむ金、受験のために、自分を失いかけている岡崎。

ぼくには、みんなの心の声（ハートボイス）が聞こえてきていた……

校長の離任式の言葉

やさしさを重ねて行って欲しい

自分の行為が人間として許せる行為かどうか、いつも自分に問いかける、知性と勇気を学んで行って欲しい。

「子どもの権利条約」を親の前で読み上げるという子に対して 校長の言葉

「人の言葉を借りて伝えたら、君自身の真意ではなくなるよ。相手からも真実は返ってこない。むやみに条文をふりかざすやり方は、君にはして欲しくないな。」

吉岡先生の言葉

「心を耕して知識の種を蒔け。やさしさと強さを肥料に、人間という花を咲かそう。」

< 作者あとがき > から

異質なものを排除するのではなく、尊重するやさしさは、友だちと関わらなくては学べないと思うのです。「いじめ」解決の道は、子どもたちが深く関わり、考えを語り合い、お互いを理解する過程にこそあるのです。

## 「ハッピーバースデー - 命かがやく瞬間 - 」 (愛といやし)

声が出なくなる

## 「ハードル - 真実と勇気の間で - 」 (承認と自立)

「いじめの事実はありません。本人の不注意による事故と思われれます。」

バスケット部のエース・有沢麗音が、学校の非常階段から落ちた！？

事件か、事故か - - 。早々に結論を出した学校は生徒たちに、「動揺しないように、自分を大切に」を繰り返した。

自分を大切にするってそういうことじゃない。

自分の目を見て、心で感じて、自分の信念で行動すること。

そう気付いたとき、子どもたちは立ち上がった。

自分たちの「正義と勇気」を、ただひとつの武器として。

冬のセミは土の中

北野文具店のおばあちゃんの言葉 (万引きされて)

自分も子ども (7つ) の時、近所の駄菓子屋からおはじきを盗んだ。

駄菓子屋のおじいちゃん「こらあ、盗みはいかんぞうって、やつでの葉っぱで顔を隠して現れた」

「おじいちゃんは言ったの。「天知る、地知る、子(し)知る、我知る」って言葉がある。自分

の行いは、だあれも知らんと思ったらいかんぞ。お天道様がちゃんと見とる。お前の立っている

この地面も、だますことはでけん。だれかが見とる。そうでな、自分の心が一番ようく見とるぞ。

自分をけがすことは、やってはいかんのだぞう。」 (P.67)